

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078000108
法人名	医療法人
事業所名	グループホーム じゅうれん
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田 6557-89 (電話) 0942-65-1555

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町 3-1-7
訪問調査日	平成19年9月19日
評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】 (平成19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 10日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安本病院、大石歯科、十連病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、桜・紅葉など四季折々の自然の景色が楽しめる公園の一角にあり、落ち着いた和風平屋建てで玄関の可憐な花々が来訪者の心を和ませてくれる。公園までの道はなだらかで利用者の日々の散歩コースであり、帰路に摘まれた野草の花がさり気なくホールに飾られ、安らぎの空間がある。外気浴・散歩・外出・行事参加など、生活の中での心身機能の維持改善が配慮されており、利用者一人ひとりの整容の正しさ・表情の明るさなどに、その人らしい穏やかな生活が伺える。代表者・全職員は地域との連携・交流・開放への思いを意識化し、地域密着型サービスケアの実践を目指し取組んでおり、利用者・職員間のふれあいも良く、母体病院の支援体制もあり、医療面でも家族の信頼を得られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、運営推進会議に報告して意見交換し、全職員で改善項目の具体的な改善シートを作成し、確実な申し送りや情報伝達等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は、評価の意義・目的を理解している。自己評価は、管理者が全職員へ評価取り組みシートを配布し、全員の意見を聴取して作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、利用者・家族についての近況報告や地域高齢者との交流・職員の研修状況、中学生の体験学習報告、外部評価について報告している。また、委員から、共用テーブルの高さの調整や相談窓口の表示を見やすくする等の指摘・助言を得て、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。家族来訪時には声かけて意見を聴くようにし、日頃から不満・苦情等が出しやすい関係を築くように努めている。職員の氏名入りの顔写真をユニット入口の見やすい場所に表示し、担当制をとる等、家族の意見等を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地区の長・民生委員児童委員と交流があり、事業所便りを地域に配布している。近隣の保育園・中高生・ボランティアと交流し、手紙交換をしている。地域の祭りには事業所一帯を開放したり、代表者が所有する人形館を地域に公開する等、地元の人々と交流することに積極的に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者に対して尊敬を持って接し、子ども達や近隣の高齢者、ボランティアとの適度のふれあいの下で「あるがままの生き方」の支援」という、独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスとしての視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時や2ヶ月に1回の勉強会時に理念の確認を行い、全職員で共有して、尊敬のある言葉かけや態度等、理念の実践に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の長・民生委員児童委員と交流があり、事業所便りを地域に配布している。近隣の保育園・中高生・ボランティアと交流し、手紙交換をしている。地域の祭りには事業所一帯を開放したり、代表者が所有する人形館を地域に公開する等、地元の人々と交流することに積極的に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、評価の意義・目的を理解している。自己評価は、管理者が全職員へ評価取り組みシートを配布し、全員の意見を聴取して作成している。前回評価での改善課題は、運営推進会議に報告して意見交換し、全職員で改善項目の具体的な改善シートを作成し、確実な申し送りや情報伝達等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者・家族についての近況報告や地域高齢者との交流・職員の研修状況、中学生の体験学習報告、外部評価について報告している。また、委員から、共用テーブルの高さの調整や相談窓口の表示を見やすくする等の指摘・助言を得て、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所や在宅者の近況について、行政に出向き、相談している。事業所便りの配布や職員による介護教室の受託を依頼する等、行政と相談しやすい関係を築き、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、利用者・家族に入居時や来訪時、家族会で説明している。全職員は、内部・外部の研修や勉強会に参加し、必要時には利用者・家族に説明や活用が出来るよう周知している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行して、利用者の暮らしぶりや行事等の案内・写真、新任職員紹介等の近況を掲載し、来訪時に手渡すか郵送している。来訪時には、健康状態・暮らしぶりを伝え、緊急時には電話で状況報告し、後に手紙を郵送している。金銭管理については、家族との取決めのもとに、定期的及び個々にあわせた報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族来訪時には声かけして意見を聴くようにし、日頃から不満・苦情等を出しやすい関係を築くように努めている。職員の氏名入りの顔写真をユニット入口の見やすい場所に表示し、担当制をとる等、家族の意見等を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務時間の交代等工夫し、異動・離職を最小限に抑える努力をしている。職員の交替がある時は1ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また2ユニットのフロアが続いているので、職員がユニット間で日常的に交流を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用は、性別・年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。本人の能力・適正を考慮して配置等を行い、研修・昇進も偏ることなく、常に基本的人権を尊重して公平性を持ち、誰もが安心して働けるような環境作りにも配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者と一部の職員が人権教育研修に参加し、そのテキスト・パンフレットを用いて内部伝達研修をし、全職員に周知している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は管理者・職員に日常的に研修受講を働きかけ、受ける機会を確保している。2ヶ月に1回、研修報告の機会を持ち、全職員が研修内容を共有して周知を図っている。段階に応じた育成をし、介護福祉士の資格取得等、働きながらのトレーニングを進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会、久留米市介護サービスグループホーム会に加入し、運営者が事業者連絡会に参加している。管理者・職員は同業者と交流して勉強会・意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に本人・家族に見学・体験をしてもらい、担当職員が自宅や病院を訪問する等、本人が違和感なく安心して場の雰囲気に馴染めるよう、家族と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に喜びや哀しみを共感して、共に暮らす仲間として利用者の気持ちを大切に、常に人生の先輩として生活の知恵を教わっている。1対1でゆっくり話し利用者から慰めてもらう場面もあり、協働しながら支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、些細な会話に思いや願いがあることを見逃さないよう把握に努めている。意思疎通が困難な人は、家族等から聴き、本人本位に検討し、支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や家族の意見・要望を聴き、ミーティングで本人・家族・職員の気づきやアイデアをもとに、本人がより良く暮らすための、本人主体の介護計画を作成している。家族からの了承の署名を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、経過記録を取り、3ヶ月または6ヶ月で介護計画を見直している。本人に変化があればその都度、現状に即した介護計画を作成して、家族に電話連絡をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間、医療協力体制の母体病院が同じ敷地内にあり、何でも気軽に相談出来る。入院時には毎日見舞い、家族とも相談し、早期退院に向けて支援している。専門医通院時には、家族と職員が同行して送迎の支援をしている。医療処置を受けながらの生活の継続も可能であり、柔軟に支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、入居時に確認して希望医の受診を支援している。本人の状態により、その都度家族と話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。初回は家族・職員同伴であるが、次回から事業所の看護師が通院介助している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時や折に触れて医師・職員が家族等へ説明している。常に本人・家族の意向を大切に、かかりつけ医・職員が連携を取り、段階に応じた説明を行う等、本人・家族・医師・職員の全員で、方針を共有している。看取り同意書を作成している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部・外部の研修や学習でプライバシーの意識化を図り、声かけや排尿誘導等をさり気なく行い、日常的にプライバシーを確保している。個人情報についても、配慮した取り扱いを行っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床や食事等は、一人ひとりの生活リズム・体調に配慮しながら利用者にあわせている。その日、本人が何をしたいかと推察して尊重し、園芸・習字・買い物等、希望にそって個別の支援を行っている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事づくりから配膳・片付けまでを共にし、同じものを同じテーブルで食べる楽しく明るい風景がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の希望に対応し、午後からの時間に柔軟に支援している。まれに入浴拒否があり、その際は時間を置き職員を代え、臨機応変にタイミングを図って入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜刻み・盛り付け・食事の挨拶・漬物・おはぎ作り・洗濯たたみ・園芸・絵を書く等、あらゆる場面で利用者と職員の協働がある。生活歴や力を活かした役割り・楽しみながら気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には利用者の希望で、午前・午後散歩に出かけている。外食は2ヶ月に1回、買い物は週3～4回、利用者を少人数に分けて行っている。ドライブは定期的に、少し離れた自然の多い場所等に出かけ、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室は施錠していない。外出傾向の利用者がいる時は見守りを強化し、玄関に設置したセンサーに頼らず、職員の連携を密にしている。敷地内の同系列の他事業所や母体病院に情報を入れ、連絡協力体制をとっている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。避難訓練は年2回、消防署の協力を得て実施し、日頃から利用者と職員で避難場所を話し合い、確認している。非常用の食料や備品等は、準備している。また、地域住民に訓練参加を呼びかけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養・水分摂取表を記録し、職員は個別に把握している。個々の摂取量にあわせて配膳し、残菜はない。献立は、栄養士が利用者の嗜好や栄養バランス等を考慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井から自然採光を採り入れ、共用空間には明色のソファやテーブルを設置している。また、和室を設け、昔馴染みの鏡台やテーブル上にさり気なく活けられた散歩の帰路のつみ草があり、和みの空間がある。壁面には写真・習字等を飾り、家庭的雰囲気配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのテレビ・ソファ・テーブル・椅子・仏壇・小物、家族写真等、一人ひとりの居室には思い出の品を数多く持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。